現代俳句

徳島

徳島県現代俳句協会
2022年3月　第9号

表紙の句

まんさくの縺れをほぐす山の風　　船越　淑子

「まず咲く」が語源といわれるまんさくは葉にさきがけて花が咲く。「縺れ」とは互いに絡み合う様子。まんさくの花の小さな蕾には4枚の紐状の花びらが所狭しと収納され、早春の日差しにちりちりとふきこぼれるように咲く。まだまだ頼りない日差しの中で縺れるように咲く姿は華やかさとは程遠く心細くさえある。山からの風がいとし子の寝癖の髪を梳くようにまんさくの鮮やかな黄色に触れる。

俳人　土肥あき子

（令和二年二月五日　徳島新聞夕刊から転載）

～生き方考～　徳島県現代俳句第九号

徳島県現代俳句協会会長　船越　淑子

令和の世になって招かれざる客「変異コロナ・オミクロン株」の出現に依って、我々現代俳句協会の集団行動も自粛を余儀なくされている。従って楽しみにしていた吟行も中止、大会も中止の憂き目をみることになってしまった。

近年は、各自の作句活動も嘗て吟行で訪れた記憶を辿り、思い出の再現と言う作句方法に切り替えざるをえなくなってしまった。こういうのにも結構楽しみはあり、かつて句友と同じ風景を見、その時の空気感まで肌で感じ、思っても見なかった記憶力の優劣をも時として笑い合うことも得難い楽しみであったりする。引いては脳の活性化にも通じ素晴らしい一時期だと思うことにしている。

即物即吟を作句の主軸に「言わんとする心」を少しだけでも吹き込めたらと思う日常には「オミクロン株」の魔手は及ばない。コロナ警戒網へのゴーサインの出る日まで句心を温存していて下さい。

令和三年活動記録

コロナ感染激減の間隙を縫って、夢道忌俳句大会と忘年句会については幸いにも実施することができた。

その他の三月七日の写楽忌句会、三月二十八日の総会・吟行句会、五月三十日の例会、八月二十九日の例会、十月の吟行句会は中止であった。

☆　夢道忌俳句大会

令和三年十月二日

於　藍住町総合文化ホール1階　　参加者42名

（超結社）

投句は　兼題（夢道忌）、当季雑詠、席題（烏瓜）の各一句、計三句

現代俳句関係選者

烏瓜夢道の涙象りぬ　　上窪　青樹

烏瓜蔓引け夕日もう落ちる　　西池　冬扇

句友てふ絆の固し烏瓜　　船越　淑子

他の選者は　大西一騎、遠藤和良、山田譲太郎の各氏

最優秀賞

無骨なる石を置く墓烏瓜　　松家　京子

高得点句

烏瓜夢道の涙象りぬ　　上窪　青樹

コスモスや迷路の先に猫家族　　上窪　則子

夢道忌俳句大会

裏木戸は浄土へ続く烏瓜　　高木　閑人

夢道忌や夢道は今も藍住に　　安曇　統太

鰯雲夢はでつかい方がいい　　松家　京子

歳時記をめくる風の手涼新た　　二橋　満璃

当日の一句

流れ星ギリシャの神の足下に　　青木　秀明

此岸にも主語乱立の彼岸花　　安曇　統太

麻婆茄子になりたかった種茄子　　伊賀　信子

赤まんまあ段でつけし赤子の名　　井形　順子

コスモスや迷路の先に猫家族　　上窪　則子

肌寒や明け方に聞く落語かな　　湘南　沙希

墓はれて逝きし夫なり鰯雲　　住友セツ子

獄中にちさき図書館夢道の忌　　髙木　閑人

夢道忌やせきをしたらひとりになった　　仲　空

変らぬは阿讃山脈夢道の忌　　中山　孝子

夜叉の顔鏡に問うて秋蛍　　奈須野惠香

夢道忌や藍の薬は深ねむり　　原田　厚子

歳時記をめくる風の手涼新た　　二橋　満璃

無骨なる石を置く墓烏瓜　　松家　京子

食うことも薬と知るや獺祭忌　　やまだ胡瓜

烏瓜六条御息所の目　　山之口卜一

波音の届く秋気のリサイタル　　吉岡えい子

☆　忘年句会・懇親会

令和三年十一月二十八日（日）

於　ホテルクレメント　　参加者26名　（三句出句）

当日の特選

◎　船越淑子特選評

縁とは句座にありけり年忘れ　　住友セツ子

一口に言って句座の効用を説いている作品だとは思うが「縁」の語彙を考えて見る時、縁は自動的なものと他動的なものがあり、前者は動かすことの出来ない血縁であり、後者は社会の中で生きていく為に関わり合う仕事であったり又諸々の趣味活動であったりする。掲句は趣味と言いながらも最早自分の生活の一部分になっている俳句の世界を真剣に掘り下げて見たのだ。一年の締め括りの忘年会の句会の席上、ずいーと見渡して見る。今日の為に片時も忘れず温めてきた三句。その結果を競うのだ。会場内には瞬時興奮の異様な空気が流れ始める。一緒に苦楽を共にしてきた大切な句座の句友の顔顔。有り難いなぁ・・「縁」あっての自分を再確認して出来上がった作品だと思い一席に。

◎　上窪青樹特選評

帰り花時に記憶は嘘をつく　　井形順子

「記憶は嘘をつく」が斬新な発見である。記憶が間違っていたのではなく、確かな記憶が、実は自分の思っていたことと違っていたということがある。喩えば「自分を虐げていたと思っていたことが、実は自分を育てるためのもので、愛情の一環であった」など、恨みが逆に感謝に変わることもあれば、逆なこともあるだろう。或いは自分の行為でありながら、その記憶が消えていた場合などにも記憶が消えている事実を記憶してしまっている場合などにも該当するだろう。ともかく記憶は確かだが、その真相はあやふやなものである。帰り花の季語が、過去を振り返るような雰囲気を醸し出している

◎　今岡直孝特選評

さがしたる糸の切り口秋渇く　　吉岡えい子

そう言われればと、すぐに首肯したが、ディテールな観察と繊細な反応を常に持ち合せていないと句のフレーズにはできない。「秋旱」と体言止めにする表現も考えられようが、「秋渇く」の難しい季語を佳妙に用いている。

生意気な頃(自省)はポエジー含みを重視。象徴、抽象、不連続、飛躍、シュール(非現実)等を好んで、切れ字、写生、トリビアルな日常、様態を遠ざけがちであった。若気の至りである。定職を辞し、年々家事手伝いの種類、量が増えている昨今、ボタン付けをすることもあって、身につまされる生活詠に共感。親しみの心情が湧いてきたのも事実で、味読して楽しい。

◎　青木慧特選選評

文豪の美は乱調に雪ぼたる　　長町淳子

「美は乱調にあり」は寂聴さんの代表作のひとつであり、後の作品「諧調は偽りなり」とともに、伊藤野枝と大杉栄の恋と革命に生きた時代を描いた評伝小説である。寂聴さんは数多くの名作を残した小説家であり、多くの人に慕われた尼僧でもある。突然の訃報に驚いたが、これからも寂聴さんのことが語り継がれる度にこの句を思い出すに違いない。雪ぼたるが舞って、笑顔の寂聴さんがまだその辺におられるようである。

当日の一句　(○は選者)

仮の世は会うて訣れて十二月　　○船越　淑子
枯芒光の粒子逃亡す　　○上窪　青樹
満月を網囲ひする女郎蜘蛛　　○今岡　直孝
熱燗や余生の日日の螺子を巻く　　○青木　慧
シュレッダーにきざまれている神無月　　伊賀　信子
帰り花時に記憶は嘘をつく　　井形　順子
痺れるはチェロの低音冬もみじ　　梅岡美沙子

忘年句会　ホテルクレメント

背の荷は軽きがよろし紅葉散る　K・ベック
縁とは句座にありけり年忘れ　住友セツ子
娘の部屋のイーゼル高し冬ごもり　髙木　閑人
鶴唳の響く吉備路は時雨時　豊田美枝子
対岸の風車に乗りし冬落暉　奈賀　和子
凩やオミクロンの文字かけめぐる　仲　空
あのそので始まる会話底冷ゆる　中山　孝子
文豪の美は乱調に雪ぼたる　長町　淳子
初紅葉仕事終りのタネ火消す　奈須野惠香
月蝕のだんだん戻る懐手　西池みどり
湯豆腐は箱のかたちに煮えてをり　西木　恵子
喜寿とても女は女冬の月　原田　厚子
小春日やベッドの母と尻取す　羽山　章鵬
凩と四つに組んで万歩計　二橋　満璃
枯初むる村ほっこりと軽くして　益田　梅子
含みたる古酒の不味さよ赤絵具　安田　建公
染まず立つ一本杉や紅葉山　吉岡えい子
牡蠣割りて悪魔の舌のごときもの　山之口ト一
浮雲を池塘に映し草紅葉　若葉　淳

☆　会員今年の一句

青柿の落ちて会津の白虎隊　青木　慧
宅配はサンタのスカスカ段ボール　青木　秀明

猪や年功序列川渡る　安芸　紀子
泥と汗シャツを染めたるラガーかな　明日　俞
プルトッププシュプシュプシュと夏来たる　安曇　統太
二羽三羽四羽五羽六羽初つばめ　阿部　久
母の愚痴きいているふり日向ぼこ　伊賀　信子
冬の暮嬰去りしあと乳匂う　井形　順子
探梅や静寂の中に水の音　石井　政子
冬の鳥ひと透明の檻に居る　いとう奏杜
ふかし藷飢ゑも戦も知らぬ子と　位頭美智子
初鏡利休鼠の帯たたく　今岡　直孝
人生の節目今なり竹の春　魚井　遊羽
一山の茂りおんあろりきやそわか　宇川　清英
寒鴉雨降りだして全て雄　うっかり
残り柿帰る児いつも独り言　馬留　寛
後の月銀座路地裏宝石店　梅岡美沙子
余生てふ未だ猟夫の血が騒ぐ　大島　宏昭
堪能の残りのビール砂が飲む　大塚紀久子
天狼や地の闇深きほど蒼く　大塚　通子
暫くは森の覇者たり椎の花　大野　拓山
錠剤が落ちて転げて冬ぬくし　尾原　葛
余生いま風のままなる風芒　金森久美子
冬帽子病の如き一万歩　鎌田　陽子
銃胼胝の消えて久しきさくらかな　上窪　青樹
人の日のエプロンは黒美容室　上窪　則子

雲伺ひ後退りして薯を挿す　川上左恵子
パン籠にこぼれるジャムや風薫る　九鬼　倭瑠
老鶯や山の高さに水平線　K・ベック
風花や教会までの緩き坂　幸田　清子
森に生れ寿司握る日々雪真白　小山やす子
臥す母を残して梅雨の滑走路　佐野　敦子
片恋と春夕焼をポケットに　島田　正子
涙腺は確かに閉じて秋思かな　湘南　沙希
時の日や遺影は老ゆること知らず　鈴江　余子
界隈の梅ほころびぬ句碑の道　住友セツ子
冬の山人も木霊も還らざる　曽根　燦
廃線に動輪の夢きりぎりす　高木　閑人
大枯野我に叱咤の風の音　谷本　栄子
対峙する春めく山の楢櫟　玉田　玄子
流し目の眦紅し菊人形　田村　素秀
木の芽風荒れし遠流の能舞台　豊田美枝子
蜥蜴出てキョロキョロしてはチョロチョロす　奈賀　和子
マイナスのひき算忘れヒヤシンス　仲　空
終戦日人のかたちの木が立って　中川　秀司
秋汐の渦は自在に鳴門瀬戸　中野　貴美
暖かやふと眠くなる観世音　中平　益美
啓蟄や善男善女自粛中　長町　淳子
一日を悔いなく生きむ芽吹き風　中山　孝子
雲海をまぜる右足座る峰　奈須野惠香

大橋の車列のみこむ冬夕焼　西　之子
特別の切符一枚銀河濃し　西池　冬扇
虫の夜の螺旋階段降りてゆく　西池みどり
蛇穴を出てより財布買いに行く　西木　恵子
養花天「ありがとう」が好きだった　西村　富子
突然の打明け話風花す　長谷川公子
啄みの残り福食むさくらんぼ　羽山　章鵬
ひまはりの信者めきたる並びやう　原田　厚子
虫喰ひのキャベツを残し美しき羽化　藤井　敏子
捨てるとは心断つこと冬に入る　二橋　満璃
馥郁の梅香に抱かれ「大河」句碑　船越　淑子
耄碌か思考無き日の懐手　ふなとがわたく
枯れゆける景の中なる水の音　本城　佐和
掃き清め今日の紅葉の降るを待つ　益田　梅子
大寒やたんぱく質を補給中　松家　京子
捨雛に髪の乱れのなかりける　松原　雅子
人生の節目いくつや鳥曇　美田佐喜子
上りより下り華やぐ花見山　向井みちこ
実ざくろや昭和平成令和生く　村島まさこ
貫きし婚の会見神の旅　森　幸子
山道の地蔵目深に冬帽子　森口　恭子
合掌の黙に薄の揺れる音　安田　建公
半世紀続く親交賀状書く　山口　晴子
あたらしい喪服ひんやり花馬酔木　山田　絵里

落雁の脆き硬さよ文化の日　やまだ胡瓜
からすうり覗いてみたき鍵の穴　山之口ト一
毎日がピカソ毎日がほとけのざ　油津　雨休
さまざまなことより遠く草紅葉　吉岡えい子
露けしや病棟に見る街明かり　若葉　淳

☆　現代俳句列島春秋(2020年)掲載句

1月　雑煮食ぶ時エルサレムに銃弾　髙木　閑人
2月　春告げるものの一つに水の音　金森久美子
3月　皆泣いてゐたる涅槃図泣かで見る　本城　佐和
4月　慰霊碑に歳月深き桜守　長谷川公子
5月　拝啓で止まるペン先青葉闇　上窪　則子
6月　風死すやならばワタシが風になる　山之口ト一
7月　端居せり藍大臣の長屋門　長町　淳子
8月　木偶頭糸引けば夜叉愁思ふと　卯坂久仁子
9月　秋ついり大きく狂ふ農暦　阿部　久
10月　憧れし自由は孤独夢道の忌　井形　順子
11月　サイモンとガーファンクルと俺と石蕗　安曇　統太
12月　煮凝りのとけだしそうな夫の嘘　伊賀　信子

☆　現代俳句列島春秋　(2021年)

1月　艇「つるぎ」錨静かや松の内　馬留　寛
2月　野良に立つ父の生き様種袋　羽山　章鵬
3月　貝塚のてつぺん騒ぐ抱卵期　奈賀　和子
4月　鍬を担いで陽炎になりに行く　中川　秀司
5月　改元の新聞兜飾りけり　いとう奏杜
6月　梅青葉墨痕淋漓の句碑に添ふ　西村　富子
7月　道問ふに外す女のサングラス　山口　晴子
8月　八月の水の染み入る戦没碑　青木　慧
9月　風と風もつれて離る花野かな　上窪　青樹
10月　したたかは母の遺伝子吾亦紅　松家　京子
11月　鄙住みに慣れて賜る亥の子餅　位頭美智子
12月　寒林を集めてパイプオルガンに　山之口ト一

令和三年度の現代俳句協会の動向

令和三年度の通常総会は、コロナウイルス感染拡大により、書面決議となった。規約改正としては

30歳未満の会員　入会金　無し、年会費　無し
30歳以上40歳未満入会金　無し、年会費三千円
40歳以上50歳未満入会金　無し、年会費一万円

が盛り込まれている。

会員数は445名で、前年から228名の減であり、財政面では434、3万円の黒字となっている。ただし、黒字の因はコロナ禍による各種事業の取止めであり手放しでは喜べない。

現代俳句協会の四国地区会員数は、

徳島　87　名　　香川　41　名
愛媛　84　名　　高知　23　名

であり、徳島は四国で最も会員数が多く、活発な県と認められる、ただ盛況時の会員数には及ばず更なる活動が必要と思われる。

因みに、全国で最も多いのは東京都の438名、最も少ないのは佐賀県の3名、海外は5名となっている。

役員は　会長　中村和弘　以下が定められており、四国関係では

理事　上窪青樹　(徳島)
理事　松本勇二　(愛媛)

となっている。

☆　二〇二二年度　行事予定

3月7日(月)　写楽忌句会　(内町公民館)　中止
3月27日(日)　総会・吟行句会　中止(5月に延期)
5月29日(日)　総会・吟行句会　(鳴門市大鳥居苑)
7月31日(日)　例会　(文学書道館)　十三時～
10月9日(日)　夢道忌句会　(藍住町総合文化センター)
10月30日(日)　吟行句会　(未定)
11月27日(日)　忘年句会・懇親会　(ホテルクレメント)

☆　都合により会の中止、会場の変更をすることがあります。

☆　徳島新聞「情報とくしま」欄をご覧下さい。

編集後記

長いトンネルの中に入った様なコロナ禍の自粛の日々が続き、句会、吟行句会等次々と中止のやむなきに到りました。皆様それぞれにそれぞれの方法で俳句と向き会われた事と拝察しております

今回、会員皆様に一句づつご登場いただきました。連絡のとれない方、出句を辞退された方は残念ながら記載されておりませんのでご諒承下さいませ。

これからも一人一人が自分なりに俳句と向き合い続けてまいりましょう。　(満)

事務局連絡先
〒七七〇－八〇七七　徳島市八万町夷山43番地
二橋　満璃　℡　〇八八－六六八－〇七九六

徳島県現代俳句協会規約

（名称）
第一条　この会は、徳島県現代俳句協会という。

（目的）
第二条　この会の目的は、徳島県現代俳句協会会員が相互研究の場をもち、親睦融和を図ることを目的とする。

（事業）
第三条　前条の目的達成のため、次の事業を行う。
1　俳句大会
2　研究句会
3　その他、目的達成のため必要な事業

（役員）
第四条　この会に次の役員を置く。
1　顧　問　若干名
2　会　長　一名
3　副会長　二名
4　幹　事　若干名
5　監　事　一名
6　事務局長　一名、事務局　若干名
7　会　計　一名

第五条　役員の任務は次の通り定める。
1　会長は、会務を総括し、この会を代表する。
2　副会長は、会長を補佐し会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名した副会長がこれを代行する。
3　幹事は、会長の諮問に答える。
4　監事は、会計の監査に当たる。

（役員の選任及び任期）
第六条　役員の選任は、総会において行い、任期は二年とし、再選は妨げない。なお、事務局長及び会計は、会長が任命する。

（顧問）
第七条　この会に、顧問若干名を置くことができる。顧問は、会務について会長に意見を述べることができる。

（会議）
第八条　総会は、年一回とし、必要に応じ臨時総会を会長が招集する。

（経費）
第九条　この会の経費は、本部からの交付金でまかなうが、必要に応じ会費を徴収する。

（付則）
この会則は平成十年四月一日から施行する。

徳島県現代俳句協会役員

会　長　船越　淑子
副会長　上窪　青樹
　　今岡　直孝
幹　事　大島　宏昭
　　青木　慧
監　事　住友セツ子
　　安曇　統太
会　計　二橋　満璃
事務局長　松家　京子
事務局